

NPO 法人言語発達障害研究会 第 92 回定例会報告

日時： 2024 年 5 月 18 日（土）13:30—16:00
 場所： オンライン
 題名： A 群（音声受信未習得）だが、家庭で事物名称を受信、発信した子どもを中心に その出現と経過・今後の対応（事物名称・状況指示）
 講師： 小寺 富子 氏
 NPO 法人言語発達障害研究会

第 92 回定例会は、NPO 法人言語発達障害研究会所属の言語聴覚士小寺富子氏のお話を伺いました。言語聴覚士、教員、保育士など合わせて 59 名の方々のご参加をいただきました。

<S-S 法>の開発者の一人である小寺氏の話は、<S-S 法>そして日々の臨床の新しい景色を私達に見せてくれます。言葉の理解のできない、音声受信未習得のお子さんの中に、家庭で音声の受信、発信ができたというエピソード（家庭の報告）を持つ一群がいるというお話でした。小寺氏はこの一群を通常経験することが少なく、収集することが困難なことから、西部劇の砂金掘りを連想させるとして、「“さきん砂金”ちゃん」と名づけます。小寺氏は、「“さきん”ちゃん」をタイプ分けして、その後の経過を掘り下げてくれました。

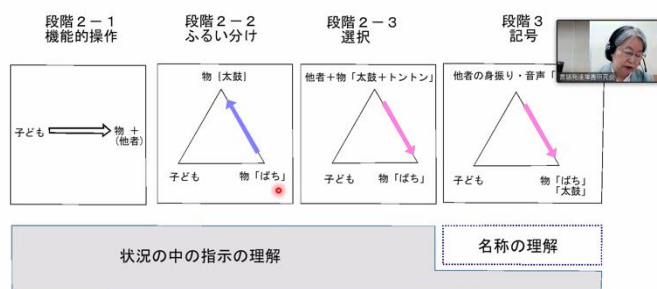


自分の臨床を振り返ってみると、保護者の「家では理解してるんですよ」という訴えを、「状況があるからわかるように見える」と言いつつ、「状況理解」という収納箱にしまい込んでいなかったでしょうか。小寺氏は、その収納箱を開け、砂金を探し出し、金塊にしていくヒントを示してくれました。それだけでなく、このような古くて新しい課題(=砂金)は、日々の臨床の中に転がっていることも教えてくれました。

話を聞きながら、今や<S-S 法>の代表的なキーワードとなっている「ふるい分け」「選択」もかつては、状況理解という収納箱にあったこと、それを小寺氏ら先達の先生方が臨床家、当事者その家族の輝かしい共有財産としてくれた歴史のワンシーンが見えた気がしました。

（文責・東川健）

図 10 言語記号の段階と状況の中の指示の理解・事物名称の理解



<参加者の声>

- 私の職場はA群のお子さんもたくさん生活しているので、そういった子に対してスモールステップで関わる方法についてとても参考になりました。
- 段階 2-2 通過、2-3 で躓き、かつ「家だとできる・家ではわかる」と保護者の方がおっしゃるお子さんは多く経験していて、今後の臨床につながる知見をいただきました。
- 小寺先生のお話を久しぶりに伺い、心が熱く、そして暖かくなり、自分の臨床を考えました。検査場面ではできないことがご家庭ではできるというお話を伺う時に、STがどのような感情や態度でお話を伺うか、どんな視点からどのような質問をするかがとても大事なことだと思いました。
- 私は在宅での仕事になりますので、訓練室とまた違った雰囲気になり、それを生かせる部分と逆にフォーマルな訓練ができなくて困る部分とがあるのですが、しっかり状況を整理して評価・訓練にあたることはやはり必要なのだと再認識いたしました。表 19 のチェックリストは、そういった整理におそらくこれからとても役立つと思い、大変ありがたく感じています。

